

子どもの病気について①(3,4ヶ月頃まで)

項目	主な注意する点
頭部	大泉門の膨隆
目	目ヤニ、明るい方を見るか。
鼻	鼻づまり
耳	副耳、耳ろう孔、外耳道の耳だれ、ただれ、大きい音にびっくりするか。
顔面	脂漏、脂漏性皮膚炎、新生児にきび、サモンパッチ
口	がこうそう、舌小帯、上皮真珠、口唇裂、口蓋裂
頸部	斜頸、間擦疹(ただれ)、ウンナ母斑
胸部	心雑音、変形
腹部	臍ヘルニヤ、臍肉芽腫、腹部の腫瘤(神経芽細胞腫など)
泌尿生殖器	陰嚢水腫、停留辜丸(停留精巣)、鼠径ヘルニヤ
皮膚	湿疹、脂漏性湿疹、血管腫など
四肢	先天性股関節脱臼、内反足

※3,4ヶ月頃までは上記の項目などに注意する。その他 「腸重積」、「幽門狭窄」、「乳幼児突然死症候群」などの病気に注意する。

【頭部】

大泉門は「水頭症」、「脳の腫瘍、炎症」の時に膨隆する。

小泉門は生まれてまもなく閉じるが、大泉門は1歳半頃までに閉じることが多い。

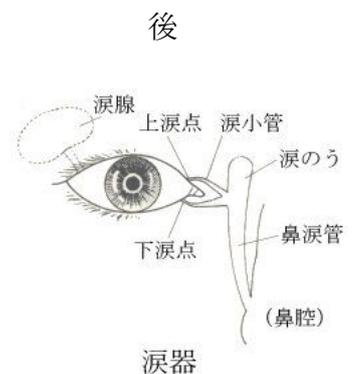
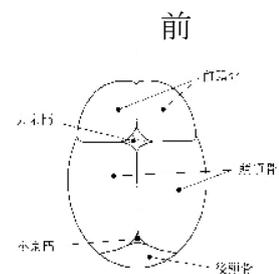
【目】

目ヤニが黄色かったり、糸を引く時は細菌やウィルスの感染に注意する。「先天性鼻涙管閉塞」は目から鼻に通じる鼻涙管がつまり、涙が出たり、目ヤニが出たりする。目の近くの湿疹をこすって感染して目ヤニが出ることもある。

明るい方を1ヶ月頃は何となく見ているが2ヶ月頃になると目で追うようになる。

【鼻】

1ヶ月頃は風邪をひいていなくても鼻がつまりやすい。そのために母乳が吸えないとか、眠れないことがある。鼻くそが鼻の入り口付近ならピンセットで取る。ズルズルした鼻汁ならスポイトで吸い取る。



【 耳 】

耳の前方に皮膚の隆起があるのを副耳(ふくじ)という。先天性のものである。手術により摘除する。

耳の上部の前方か下部に針孔のような小さい孔が生まれつきあいている。先天性耳ろう孔といい、胎内で耳ができる時に不完全であったためにできたものです。分泌物が出ることがある。

耳だれの原因は色々ある。異常に柔らかい耳あかの時の耳だれとして出たり、外耳道の湿疹で出たり、中耳炎の時もある。耳だれの性状、量、臭いなどに気をつける。

聞こえるかどうかなどの見当をつけるには健康管理マニュアルの「乳児の聴覚発達度チェック表」(後述)を参照してください。



【顔 面】

生後3週から2ヶ月頃に顔や頭の脂肪の分泌が多くなり、カサブタができ、はがれるのが脂漏である。石鹸で良く洗う。放っておくと脂漏性皮膚炎になることがある。脂漏性皮膚炎は顔や頭にできやすく黄色のカサブタと赤い小丘疹ができる。細菌の感染がおこることがある。アトピー性皮膚炎と混同しないようにする。

新生児にきびは生後半月から1ヵ月半頃にひたいや頬の毛穴に皮脂や角化物が詰まって小丘疹が出たものである。細菌に感染すると赤くはれる。湿疹とは区別する。

サモンパッチは顔の中央部に出るのが特徴で紅鮭(salmon)の色をした斑(patch)である。約30%に先天的に見られる。生後7日以内に消える場合が多く、1歳半頃ではほとんどが消える。まれに成人でも見られる。



【 口 】

頬の粘膜、歯肉などに白い乳カスのようなものが付く。がこうそうというカビの一種で、こすっても落ちない。痛みはないが、のどの方に

広がらないように気をつける。口の中の常在菌で、抵抗力の弱い乳児におきる。母乳の時は乳房をきれいにふくこと、ミルクの時は乳首を十分に消毒するようにする。



舌小帯が付いているのは病的ではない。新生児の頃に舌の先端まで付いているものは軽く切ることにはある。普通はそのままとし4、5歳頃まで様子を見る。幼児音(舌足らず)となるのとは関係ない。



上皮真珠は生後1ヶ月頃にできる歯肉の白いあわ粒大の丸いもので、一個から数個でき、固いが痛くはない。しばらくするとなくなる。歯が生えてきたと間違えることがよくある。



口唇裂は授乳には支障がないことが多い。口蓋裂は舌と口蓋で乳首をつかまえにくく、しばって吸う力も弱い。専門の哺乳びん等を使う。これらのご両親、特に母親の心のケアが必要ではないでしょうか。母親が自分を責めたり、劣等感を持ったりしないよう配慮しなければなりません。手術により良くなることを説明する。口唇裂の手術は生後3ヶ月以後に、口蓋裂は1歳半以後2回行われる。



【頸 部】

斜頸は頭が一方に傾いた状態で、多くは先天性の筋性斜頸と後頭部の片方が扁平のために一方ばかり向いている寝癖などの場合がある。前者は首の両側を斜めに走っている筋肉にしこりなどがあり、頭をまっすぐにしようとしても直らない。マッサージなどはせず1歳半頃まで様子を見る。後者は首は自由に動くのでまっすぐになる。



間擦疹はくびれた所の赤いただれで、太った乳児の首に良く見られる。予防として入浴の時に石鹸で良く洗い、暑い時期にはベビーパウダーを薄くつけるなどする。

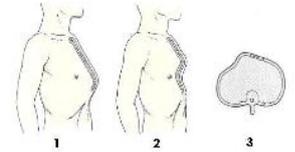
ウンナ母斑は暗赤色のアザでうなじから後頭部に見られる。発生頻度はサモン・パッチと同程度。消える時期はサモンパッチよりやや遅い。5～10%は成人にも残る。



【胸 部】

心雑音は生後すぐに聞こえても、1ヶ月頃には聞こえないことがある。又、1ヶ月頃に聞こえなくても3ヶ月頃再び聞こえることがある。いずれにしても先天性心疾患を疑い早期に受診を勧めましょう。

胸郭の変形である「漏斗胸」、「鳩胸」は先天的なものがほとんどで、胸骨下部や剣状突起の付近が陥没しているのが漏斗胸です。内臓などに障害がおこる時は手術します。通常は発育の経過を見ます。胸骨、特に



下半分が前方に突出しているのが鳩胸です。内臓に影響するようなことはほとんどなく成長とともに自然に目立たなくなるのが一般的な傾向です。

【腹 部】

臍ヘルニアは俗に「出べそ」と言われる。内臓が臍に飛び出した状態で、泣いたり、排便したりして腹圧が高くなるのをきっかけに、小腸等が腹壁を押し上げてできます。6ヶ月頃には大部分は治っているが、治らない場合は状態を見てカブレに気をつけ、絆創膏で止める。通常は2歳頃には自然に治る。



臍肉芽腫はへその緒が取れたあとの傷が治らずに、へそのくぼみに肉芽という組織が増殖してできてジクジクしている。痛みはないが細菌に感染しないよう早めに受診する。

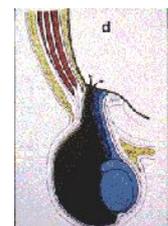


腹部の腫瘍は神経芽細胞腫などの悪性のものや水腎症などの良性のものがある。乳児は概してお腹が大きい、手を触れると何かがあたる感じがすることがある。宿便の時もあるが、時として腫瘍であったりする。



【泌尿生殖器】

陰嚢水腫は陰嚢の片側又は両方がふくれる。睾丸には影響はない。鼠径ヘルニア(脱腸)と区別しなければなりません。6ヶ月頃までに自然に吸収されることが多い。

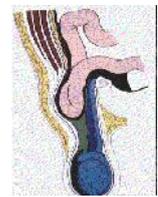


停留睾丸(停留精巣)とは出生時に睾丸は陰嚢の中に入っているが、

早産などで下降していないことがある。3ヶ月頃には下降してくるが1歳を超えて下降しないと、様子を見て手術を行う。



鼠径ヘルニヤはものの付け根にこぶが出て気づく。陰囊までふくれることもある。小さいものは自然に治る場合があるが、手術することが多い。1歳くらいまで様子を見る。



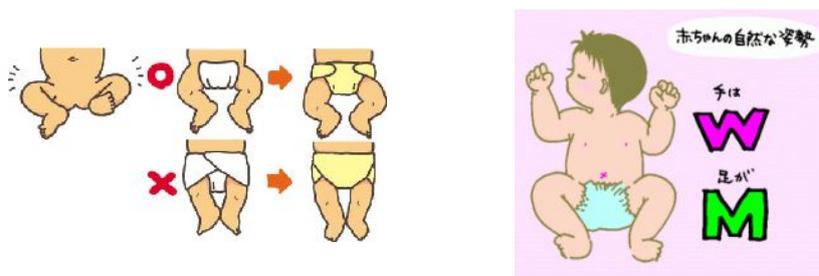
【皮 膚】

湿疹、脂漏性湿疹に関しては「乳児の肌のトラブル ビジュアル版」を参照して下さい。

血管腫などは俗に「アザ」と言われ、色々な種類がある。将来、消えるものと消えないものがある。

【四 肢】

先天性股関節脱臼はものの関節のところで、大腿骨の骨頭が骨盤の臼蓋からはずれている場合で、完全脱臼と亜脱臼がある。オムツ換えの時に両足をまっすぐに伸ばして、左右の長さが違うか、両足を腹の方に十分に曲げたとき、ひざの高さが同じかなどで調べる。詳しくは受診し、レントゲン検査で調べる。



内反足は足首が内側にねじれていて足の裏が内側に向いている場合、足先がとがって、足関節で曲げにくい場合などがある。発育とともに程度がひどくなる。早期発見、長期間の治療が必要です。



参考書籍 「やさしい育児相談」今村 榮一 著 日本小児医事出版社ほか